

正親校だより



令和7年10月27日

【全国学力調査号】

京都市立正親小学校

校長 長谷川 英司

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/seishin-s/>

Eメール: seishin-s@edu.city.kyoto.jp

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！



令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果より

4月17日に6年生で実施しました「令和7年度全国学力・学習状況調査」について、本校6年生の結果をお伝えします。

総合結果(国語、算数、理科)

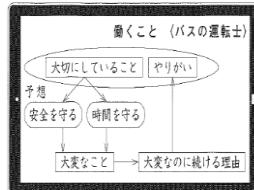
今年度は、国語、算数に加えて、理科も実施されました。3教科とも全国平均を上回る結果となりました。3教科とも「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の正答率が全国平均との差が大きく、問題形式別(選択式・短答式・記述式)で比較すると、国語・算数の記述式の正答率が全国平均より20%以上も高いという特徴が見られました。

国語の結果より

問題形式で区分すると、記述式問題の正答率が全国平均を大きく上回りました。

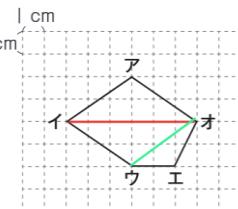
学習内容別では「情報の扱い方に関する問題」で平均より正答率が低かったので分析してみました。特に「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る」問題は、正答率56.7%でした。インタビューについて話し合った内容を図で表したもの(右図)の図を説明した文を4つの選択肢から選ぶというものでした。「質問する内容を短い言葉で書き、線でつなぐことで質問を一つにしぼっている」と誤回答した児童が26.7%で、一見正答のように見えますが、アンダーラインの部分が違っています。正答は「質問する内容を四角で囲み、線でつなぐことでインタビューの流れを整理している。」です。

問題文には、話し合いの様子の文章もあり、問題文と図の2つの情報を使って、選択肢から読み取れる要素を1つずつ確認しなければ正答できない問題でした。



算数の結果より

どの問題も全国平均を上回っていますが、全体的に正答率が5割に満たなかった問題を詳しく見ていきます。五角形の面性の求め方を尋ねていますが、まず、どこで分けて考えるかを考え、次に式や言葉を使って求め方を説明します。これまでに学習した公式は問題用紙に記述されており、普段の授業でも求め方を説明する場面が多いのですが、苦手な児童が多いです。図からそれぞれの辺の長さを求めなければ式を立てることができません。また、問題文が長く全ての題意を理解できなかつたことも要因と考えます。



理科の結果より

ほぼ全国平均を上回っていますが、正答率が1割に満たない問題がありました。身の回りにある金属が、電気を通すか、磁石を引き付けるかという知識を身につけているかを問うものでした。これは3年生で学習した内容ですが、知識が定着していないということは、その知識を生活に生かすことがないのではないかと考えられます。学習したことを普段の生活の中で活用するためには、様々な生活経験ができる環境が必要だと思います。



児童質問紙調査より

- 「学校が楽しい」の設問では、否定的な回答はありませんでした。また、「読書は好きですか」では肯定的な回答が80%で全市・全国平均を大きく上回っています。「回答を文章で書く問題を最後まで書く努力をした」では86.7%が肯定的な回答をしており、大変良い結果でした。
- 「困りごとを大人にいつでも相談している」の設問で「当てはまる」の回答が19%、全国平均より低いのが気になりました。「だいたい当てはまる」は60%以上ですが、困ったことを相談することに躊躇があると捉えると心配になります。合わせて「じぶんに良いところがある」の設問で「当てはまる」の回答が22.6%で、全国平均の47.3%を大きく下回っています。自己を肯定し、困りごとがあれば相談にのれる環境や雰囲気づくりは私たち大人の大きな役割です。ちなみに「地域の大人との関り」に否定的な回答が7割以上あり、家庭と学校だけでなく、地域での活動への参加を促すことも大事だと思います。